

心理学方法論 I (01EE001)

(Methodologies on Psychology I)

授業形態：講義

担当教員：濱口佳和

教室：人間系学系棟 A202

授業時間：春 A B 火曜日 第 1・2 時限

研究室：教員により異なる

単位数：2 単位

オフィスアワー：教員により異なる

履修年次：1 年

教育目標との関連：「②心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理的測定から解析に至る心理学の方法論（心理学的測定・調査・実験観察・相互作用分析など）を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。

授業概要：主に心理学の基礎的方法論を取り上げ検討する。

評価方法：出席とレポートによる総合評価。単位取得の最低条件として、開講されたすべての授業時間数（休講となった時間数は除く）の 60%以上への出席が必須。

教科書：特に使用しない。

参考図書：そのつど指示をする。

授業外における学習の方法：関連する研究論文を講読すること。

受講生に望むこと：研究のアイデアを豊かにすること。

授業計画（各週毎授業計画）

- ① 4 月 28 日(火) ◆ ガイダンス(学位 P リーダー)ならびに Infoss & CITI-Japan(特任助教)
 - ② 5 月 12 日(火) 濱口佳和：心理臨床における実践的仮説生成研究法
 - ③ 5 月 16 日(土) ◆ 英語論文を書く I 講義 (Terry Joyce)
 - ④ 5 月 19 日(火) 佐藤有耕：青年心理学研究の方法論
—青年心理学的な研究とは何か，青年心理学の研究の具体例—
 - ⑤ 5 月 26 日(火) 登藤直弥：構造方程式モデリングの基礎
 - ⑥ 6 月 2 日(火) 大山潤爾：ICT を用いた心理学研究法(呈示刺激制御・映像解析)
 - ⑦ 6 月 6 日(土) ◆ 英語論文を書く II 実習 (Terry Joyce)
 - ⑧ 6 月 9 日(火) 山田一夫：脳神経科学と薬理に関する研究法
 - ⑨ 6 月 16 日(火) 高橋阿貴：遺伝とホルモンに関する研究法
 - ⑩ 6 月 23 日(火) 研究倫理申請書の書き方 (研究倫理委員) ※ Infoss & CITI-Japan 受講確認
- 7 月 22 日(水) 修士論文第 1 次指導会

注意事項：

- ・ 修士論文指導会に必ず出席すること。

心理学方法論Ⅱ (01EE002)

(Methodologies on Psychology II)

授業形態：講義

担当教員：濱口佳和

教室：人間系学系棟B301

授業時間：秋A B 火曜日 第1・2時限

研究室：教員により異なる

単位数：2単位

オフィスアワー：教員により異なる

履修年次：1年

教育目標との関連：「②心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理的測定から解析に至る心理学の方法論（心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など）を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。

授業概要：主に心理学の基礎的方法論を取り上げ検討する。

評価方法：出席とレポートによる総合評価。単位取得の最低条件として、開講されたすべての授業時間数（休講となった時間数は除く）の60%以上への出席が必須。

教科書：特に使用しない。

参考図書：そのつど指示をする。

授業外における学習の方法：関連する研究論文を講読すること。

受講生に望むこと：研究のアイデアを豊かにすること。

授業計画（各週毎授業計画）

- ① 10月 6日 ◆ 新しい統計結果の表記方法（登藤直弥）
- ② 10月 13日 外山美樹：心理尺度の作成
- ③ 10月 20日 菅原大地：システマティック・レビュー
10月 21日（水）修士論文第2次指導会
- ④ 10月 27日 松田壮一郎：生理計測・行動計測
- ⑤ 11月 5日（木）相川 充：対人関係を対象とする指標の測定法
- ⑥ 11月 17日 青木佐奈枝：心理検査法—研究及び臨床活用
- ⑦ 11月 24日 原田悦子：言語プロトコル分析，高齢者研究の意義と方法
- ⑧ 12月 1日 沢宮容子：認知行動療法における実践研究の方法
- ⑨ 12月 8日 綾部早穂：ニューロイメージング計測法の原理
- ⑩ 12月 15日 加藤克紀：行動の直接観察とその分析法
1月 20日（水）修士論文最終審査会

注意事項：

- ・ 修士論文指導会・最終審査会に必ず出席すること。

心理学特別研究 A (01EE009) /B (01EE010) /S (01EE011)

(Basic Research in Psychology)

授業形態：演習と実習・実験

担当教員：濱口 佳和 他

教室：各教員の研究室

心理専攻全教員

授業時間：春 AB (A) ,秋 AB(B), 応対 (S)

単位数：各 2 単位

研究室：教員により異なる

履修年次：2 年

オフィスアワー：教員により異なる

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」ならびに②「心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連

授業の到達目標：

各自の修士論文の研究テーマについて幅広く文献をレビューし、その上で未解決の問題を取り上げ、綿密な研究計画を立案し、習得した心理学的方法論を使用して的確なデータの収集と分析を行い、実証的な研究としてまとめる能力を身につけること

授業概要：各教員がそれぞれの指導学生に個別に示す

評価方法：同上

教科書：特に使用しない。

参考図書：そのつど指示をする。

授業外における学習の方法：関連する研究論文を講読すること。学会・研究会などで専門家に意見を聴く

受講生に望むこと：学術雑誌に掲載されるレベルの研究を目指すこと

授業計画（各週毎授業計画）

詳細は各指導教員がそれぞれの院生に個別に示す。

原則として、2 年次の春学期 AB に心理学特別研究 A (01EE009) ，秋学期に心理学特別研究 B (01EE010) を履修する。ただし、特定の事情・目的がある場合に、春・秋いずれかの 1 タームに専攻長の承認を得て、心理学特別研究 S (01EE011) の履修により代えることができる。

感覚知覚心理学特講 (01EE101)

(Lecture on Sensation and Perception Psychology)

授業形態：講義

担当教員：綾部早穂

教室：人間 B335

授業時間：春 A B 金曜日 第 5・6 時限

研究室：

単位数：2 単位

オフィスアワー：月曜日 15:30～17:30

履修年次：1・2 年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：情報処理論的アプローチの理解

授業概要：情報処理論的アプローチに基づき、感覚、選択、記憶、解釈、反応に関する基本的情報処理過程を探る。今年度は雑誌 *Attention, Perception and Psychophysics* に発表された論文の中から数報を選び、様々な観点から最新のデータと解釈、知見を学び、討論を行うことにより人間の情報処理の働きの理解を深める。

評価方法：授業への出席と授業への関与の度合いを総合的に判断する。

教科書：

参考図書：

授業外における学習の方法：参考図書や文献の講読

受講生に望むこと：自主的な学習、幅広い知識の獲得

授業計画（各週毎授業計画）

本年度は雑誌 *Attention, Perception and Psychophysics* で過去 5 年間に発表された論文の中からまず自分の興味が持てる論文を 1 報選び、どのような研究背景の中で、いかなる研究手法で、何が明らかにされたのかを、理解し発表する。さらにその研究に関連する研究論文をもう 1 報読むことで、その研究についての理解をさらに深める。

- 1 オリエンテーション
- 2～8 研究論文のレポート及び討論
- 9・10 まとめ

認知心理学特講 (01EE104)

(Lecture on Cognitive Psychology)

授業形態：講義

担当教員：原田悦子

教室：人間 A321

授業時間：春 A B 月曜日 第1・2時限

研究室：人間系学系棟 A342 TEL853-4717

単位数：2単位

オフィスアワー：火曜日 11:00～17:30

履修年次：1・2年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：認知心理学研究の問題設定/現状/方法論/限界の理解・習得を目標とする。

授業概要：認知心理学研究の文献をレビューしながら、認知心理学における考え方の枠組・前提、問題のとらえ方の特徴と詳細化、研究方法とその分析、得られた結果からの展開の仕方について検討する。

評価方法：出席を前提とし、発表(50%)ならびに討論への参加(50%)を総合的に評価する。

教科書：なし

参考図書：随時指定する。

授業外における学習の方法：教材に関する関係資料を主体的に探し、理解してこよう。

受講生に望むこと：先行研究を critical に読むことは研究活動の基本です。そうした読みと議論を通して、認知心理学を体得していきましょう。自分の研究領域との関係性を積極的に考え、議論に石を投げ込んでください。

授業計画（各週毎授業計画）

認知心理学の core な学術雑誌から、参加者の興味と全体のバランスを考えながら、異なるテーマに関する論文をピックアップし、1回の授業で2本の論文を読みます。各章の担当者は、論文自体の梗概をまとめつつ、議論を誘導すべく、各種資料を提供すること、出席者も必ずその論文を読んできた上で、批判的に読むという形での議論に参加することが求められます。

1. オリエンテーション：授業の方法の説明、ならびに各人の興味に合わせた分担決定
2. ～9. テキスト論文の報告と議論（1コマで1論文；1回の授業で2論文を進める）
10. 認知心理学とその他の学問領域の違いと類似点について議論を行う。

心理学インターンシップ (01EE008)

(Psychology Internship)

授業形態：実習

担当教員：原田 悦子（世話人）
他 心理専攻全教員

教室：

授業時間：応対

単位数：1単位

履修年次：1・2年

研究室：教員により異なる

オフィスアワー：教員により異なる

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」ならびに②「心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連、さらに③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家としての能力の育成」に関連する。

授業の到達目標：

民間企業・団体・地方自治体などでの組織において行われる一定期間以上のインターンシップに参加し、その体験を通して、そこでの学びを自らの心理学における学修・研究の一環として位置づけることを目的とする。同時に、本科目は受講生のキャリア形成をうながし、また心理学と社会の関係性について主体的に学んでいくことも目的とする。

授業概要：受講生自身が見出したインターンシップの実習に基づき、指導教員からの事前・事後指導の中で、各受講生にとっての心理学の研究と関係付けていく。

評価方法：下記参照

教科書：特に使用しない。

参考図書：特に使用しない。

授業外における学習の方法：学外組織におけるインターンシップに参加する。

受講生に望むこと：自分自身の心理学研究・学修の目的に合致したインターンシップに、主体的に参加する。

履修の方法について

1. 本科目で対象となるインターンシップは、概ね1週間（4ないし5営業日）以上の活動への参加を必要とするものであり、その内容が、心理学と関係性が強く、その教育・研究上の効果、有効性が、指導教員によって認められていることを前提とする。また、受講生が自らインターンシップ参加の手続きを取り、実習機関から認められていることを前提とする。

2. 科目履修を希望する者は、自分自身が参加するインターンシップに関する情報をあらかじめ指導教員を通じて申請し、専攻教育会議において「授業対象」としてのインターンシップとなるか否かについての承認を得ること。その際、インターンシップに参加する日程、場所、活動内容についての情報と共に、実習先機関からの正規の案内状、参加を承諾する書式などを添付して提出すること。提出には、指導教員による承認を必要とする。

これらの提出された情報を元に、専攻教育会議において「心理学インターンシップ」としての教育上の利点が十分に得られると考えられる場合に履修が認められる。

3. 受講生は、インターンシップ終了後にインターンシップ実習報告書を指導教員に提出し、その承認を得て科目担当者（専攻長）が単位を認定する。報告書には、インターンシップ実習での活動内容、ならびに、その心理専攻における教育との関連性について概要をまとめる。可能であれば、実習先機関からの活動証明あるいは評価書を添えて提出する。

以上の手続きを経て、専攻教育会議により、単位取得が認定される。

学習心理学特講 (01EE110)

(Lecture on Learning Science)

授業形態：講義

担当教員：茂呂雄二

教室：人間 B335

授業時間：春 A B 木曜日 第3・4時限

研究室：人間系学系棟 A346 853-4615

単位数：2単位

オフィスアワー：木曜日昼休み

履修年次：1・2年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：最近の学習心理学のトピックである発達の学習論の現状と展開を理解する。

授業概要：ヴィゴツキーのアイデアに基づく学習心理学である、発達の学習論について、基礎となる考え方、歴史、その応用と展開、教員向けに開発されたパフォーマンスゲームについて解説する。

評価方法：出席、課題報告、議論への参加によって総合的に評価する

教科書：なし

参考図書：ホルツマン『遊ぶヴィゴツキー』新曜社

授業外における学習の方法：関連するビデオ資料を紹介するので、それを視聴すること。

受講生に望むこと：活発な議論への参加を望む。

授業計画（各週毎授業計画）

- 1 オリエンテーション：授業の振興に関する説明
- 2 発達の学習論の概要＋テキスト論文の報告と議論
- 3 ソーシャルセラピーについて＋テキスト論文の報告と議論
- 4 パフォーマンス心理学について＋テキスト論文の報告と議論
- 5 ヴィゴツキーのアイデア＋テキスト論文の報告と議論
- 6 ヴィトゲンシュタインのアイデア＋テキスト論文の報告と議論
- 7 放課後学習支援について＋テキスト論文の報告と議論
- 8 インプロによる学習支援＋テキスト論文の報告と議論
- 9 社会物質的アレンジメント研究＋テキスト論文の報告と議論
- 10 心理学の方法論とヴィゴツキー＋テキスト論文の報告と議論

教育心理学特講 (01EE201)

(Lecture on Educational Psychology)

授業形態：講義(演習形態を含む)

担当教員：外山美樹

教室：人間 A321

授業時間：秋 A B 金曜日 第 3・4 時限

研究室：人間系学系棟 A345 TEL853-4614

単位数：2 単位

オフィスアワー：メールによる問い合わせ

履修年次：1・2 年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：教育心理学的研究の実践方法を習得させることを目標とする。特に、様々な研究方法や分析方法を獲得することを主要な目的とする。

授業概要：教育心理学の分野の文献を講読し、教育心理学の方法論や最新の研究成果についての知識を深める。また、授業を通して、発表レジュメのまとめ方、プレゼンテーションの仕方といったような研究スキルの獲得を目指す。具体的には、教育心理学のテーマに関する論文（英文を含む）や専門書を担当受講生がプレゼンし、そのテーマについて受講者全員で討論する。今年度は、各受講生が興味を持つ論文（英語、日本語）を 2 本ずつ発表する予定である。

評価方法：出席状況、レポート（発表内容）、討論参加の程度によって総合的に判断する。

資料：随時配布する。

参考図書：授業中に紹介する。

授業外における学習の方法：常日頃、様々な文献に目を通してください。

受講生に望むこと：積極的な授業参加を望みます。

授業計画（各週毎授業計画）

- 1 オリエンテーション：授業で使用する書物の決定ならびに各人の興味に合わせた分担決定
- 2 ～ 9 発表および討論（1回につき1章を目安とする）
- 10 まとめ

心理統計学特講 (01EE204)

(Seminar in Psychometrics)

授業形態：講義

担当教員：登藤直弥

教室：人間 A321

授業時間：秋 A B 火曜日 第 3・4 時限

研究室：人間系学系棟 A313

単位数：2 単位

オフィスアワー：メールによる問い合わせ

履修年次：1・2 年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」ならびに②「心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連。

授業の到達目標：「教育測定学や心理統計学に関する専門的な知識と技術を獲得すること」を目的とする。

授業概要：本授業では、データ解析手法に焦点を当てた最新の論文の輪読を中心とし、心理統計学や量的研究法の基礎的な事項および先端的な話題について幅広く学ぶことを目指す。したがって、受講者には、各自の興味関心に沿って担当する文献を選んでもらい、担当した論文の内容を要約して、他の受講者に対して簡潔に説明を行ってもらうことになる。ただし、これらの授業内容や進め方に関しては、受講者の興味や全体のバランス等に応じて適宜調整していく予定である。

評価方法：出席状況、発表内容、討論参加の程度によって総合的に判断する。

教科書：特に指定しないが、参考文献を適宜教示する。

参考図書：特に指定しないが、参考文献を適宜教示する。

授業外における学習の方法：適宜他の文献を参照しながら、担当した論文等の内容を主体的に理解するように努めること。

受講生に望むこと：心理統計学や量的研究法の基礎的な事項とともに関連する最新の研究についても積極的に学修し、自身の研究・実践に活かしたいと考えている全ての方の受講を歓迎します。心理統計学や量的研究法に関する知識の多寡は必ずしも問いませんが、自身の研究分野との関係を考慮しながら、積極的・能動的な態度で、最新の指定文献を予め読み講義に参加することを強く望みます。特に、粘り強く担当文献と向き合い、自分の得た知識を他者に対して分かりやすく簡潔に説明する作業を重視します。

授業計画 (各週毎授業計画)

1. オリエンテーション + 各回の担当者ならびに担当文献の決定
- 2~9. 教員による講義、あるいは、担当者による文献に関する報告とそれを受けての討論
(発表者数によって講義の回数は変動する)
10. まとめ

青年心理学特講 (01EE210)

(Lecture on Adolescent Psychology)

授業形態：講義

担当教員：佐藤有耕

教室：人間 A202

授業時間：春AB 火曜日 第3・4時限

研究室：人間系学系棟 A344 TEL853-4695

単位数：2単位

オフィスアワー：火曜日 11:40~12:00

履修年次：1・2年

〈E-mail:yuhkohst@human.tsukuba.ac.jp〉

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：授業で取り上げる内容を通して、青年心理学研究の現状と課題を理解し、青年の心理を理解する多様な観点を身につけること。例えば、青年を対象としてとらえ、外から青年を理解しようとする立場と、青年の側に立って青年を理解しようとする立場(落合, 2002)の違いを知ること。青年性・世代性・個性性という問題設定の観点(西平, 1988)を理解すること。一つの現象を対自的側面・対他的側面・時間的展望の側面を含む全体としてとらえること(落合, 1995)。

授業概要：青年心理学に関する重要な文献を教材として、青年心理学に関する知見を深める。文献には、学位論文などの重厚な研究の購読を基本とし、それ以外にも青年心理学の古典、体系的なテキスト、レビュー論文、最新の学会誌論文、隣接する学問領域の文献などを含める。学類の講義とは違い、少人数で実施し、発表や討論などを活発に行う学生参加型の授業とする予定である。

評価方法：授業に参加して、討議や発表や質疑応答など、受講生としての責任を果たした場合に単位の認定を行う。テストは行わない。

教科書：未定

参考図書：

①B. Bradford Brown, Mitchell J. Prinstein (編) 子安増生・二宮克美 (監訳) 『青年期発達百科事典』全3巻 丸善出版 2014

②日本青年心理学会(企画) 『新・青年心理学ハンドブック』 福村出版 2014

③久世敏雄・齋藤耕二(監修) 『青年心理学事典』 福村出版 2000

授業外における学習の方法：授業に関連する内容について、受講生各自が積極的に学習を深めておくことが求められる。

受講生に望むこと：心理学の学位論文に興味・関心がある人に参加してもらえることを望みます。専門の如何にかかわらず、この授業を通して青年心理学の知見を学び、各自の研究活動に役立ててください。

授業計画 (各週毎授業計画)

0. オリエンテーション

1. 思春期・青年期に関する先行知見の理解
2. 青年期の特徴の通覧-1：生涯発達の中の思春期・青年期
3. 青年期の特徴の通覧-2：青年期の発達的特徴
4. 青年心理学の重要文献の検討～

具体的な内容に関しては、受講生との顔合わせの後に、年度ごとに検討して確定していく

行動デザイン特講 (01EE213)

(Lecture on Behavioral Design)

授業形態：講義

担当教員：松田 壮一郎

教室：人間 B335

授業時間：秋A B 火曜日 第5・6時限

研究室：人間系学系棟 B 棟 303

単位数：2単位

オフィスアワー：Slack による問い合わせ

履修年次：1・2年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」ならびに②「心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」に関連。

授業の到達目標：社会実装を意識したヒトの行動変容に関する実験研究からプロジェクト立案までが可能な素養を身につける。

授業概要：受講者の興味に沿った、ヒトの行動変容に関連する、過去5年以内に国際誌に掲載された（英語）論文を読み、要約して毎週発表してもらう。その発表を基に、解説及び討論を行う。また、各自が興味を持った社会的課題について、どのようなアプローチが可能か、文献や各種データを基に、グループ毎に仮想プロジェクトを立案してもらい、相互にアドバイスを受けながら毎週アップデートしていく。ただし、これらの授業内容や進め方に関しては、受講者とのインタラクションを通じて、適宜アップデートしていく。

評価方法：出席を前提とし、発表ならびに討論への参加を総合的に評価する。

教科書：特に指定しないが、参考文献を適宜教示する。

参考図書：

- 1) Cooper, J. O., Heron, T. E., & Heward, W. L. (2007). *Applied Behavior Analysis*. 2nd ed. Upper Saddle River, NJ: Pearson. (クーパー, J. O., ヘロン, T. E., ヒュワード, W. L. 中野良顕 (訳) (2013). 応用行動分析学 明石書店)
- 2) Mazur, J. E. (2005). *Learning and Behavior*. Upper Saddle River, NJ: Pearson Hall/Pearson Education. (メイザー, J. E. 磯博行・坂上貴之・川合伸幸 (訳) (2005). メイザーの学習と行動 二瓶社)
- 3) Barlow, D. H., Nock, M., & Hersen, M. (2009). *Single Case Experimental Design: Strategies for studying behavior for change* (3rd ed.). Boston, MA: Pearson Education Inc. (バーロー, D. H., ハーセン, M. 高木俊一郎・佐久間徹 (監訳) (1997). 一事例の実験デザイン：ケーススタディの基本と応用 二瓶社)

授業外における学習の方法：英語論文を日常的に読み、まとめること。授業に関するコミュニケーションは Slack で行う。

受講生に望むこと：ヒトの行動変容や心理学研究におけるテクノロジーの活用についての知見を、自身の研究のみならず、自身の生活に活かして、より「幸せ」を感じやすくなりたいと考えている全ての方の受講を歓迎します。社会的課題と自身の研究との繋がりを常に考えながら、聴衆に応じたプレゼンテーションによって他者へ効果的に伝えるスキルを獲得してもらいたいです。

授業計画（各週毎授業計画）

1. オリエンテーション+KJ法による仮想プロジェクト決定
- 2-9. 文献発表と仮想プロジェクト進捗報告、全体討論
10. 最終発表

注1) 授業開始前にPCやスマホなどにSlackを事前にダウンロードしてきてください。<https://slack.com/intl/ja-jp/>

注2) 社会的課題に関連して、国際目標である、持続可能な開発目標 (SDGs) や、各種統計調査などをサーベイしておく、アイデアが出やすくなるかもしれません。

注3) 論文の読み方については過去にアップしたスライドが参考になるかもしれません。

<https://www.slideshare.net/SoichiroMatsuda1/ss-97245000>

社会心理学特講 (01EE301)

(Lecture on Social Psychology)

授業形態：講義

担当教員：相川充

教室：人間 A321

授業時間：春 A B 木曜日 第 5・6 時限

研究室：人間系学系棟 A308

単位数：2 単位

オフィスアワー：木曜日 11:35-12:25

履修年次：1・2 年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：英語の学術論文の精読を通して、社会心理学の研究テーマの設定法、研究手法を身につける。

授業概要：受講者は順番に、心理学（特に social skills やポジティブ心理学研究など）に関連する英語論文を紹介・報告する。その報告を受けて全員で討論する

評価方法：発表者としての責任の果たし具合と討論への参加姿勢に基づいて総合的に評価する。

教科書：必要に応じて講義中に紹介する。

参考図書：発表者が講義中に紹介する。

授業外における学習の方法：紹介する英語論文で使われている統計的手法について、説明できるようにしておく。

受講生に望むこと：討論への積極的な参加。

授業計画

1. オリエンテーション。発表順番決め。
- 2～9. 発表者は、上記「授業概要」に記したやり方で、英語論文を紹介・報告する。その後、全員で討論する。
10. ふり返りとまとめ。

心理学と認知支援工学特講 (01EE111)

(Lecture on Psychology and Cognitive Assistance Engineering)

授業形態：講義・演習

担当教員：大山潤爾

教室：産業技術総合研究所 6-11 棟 626

授業時間：通年 集中

研究室：産業技術総合研究所

単位数：2単位

オフィスアワー：メールによる問い合わせ

履修年次：1・2年

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：産業応用を意識した基礎研究の計画から検討までができる素養を身に付ける。

授業概要：感覚知覚心理学や認知心理学の実験心理学的アプローチを応用して、産業界や社会の課題に対するソリューションを提供できる研究の考え方、進め方について解説する。教員が講義を行うだけでなく、受講生参加型のインタラクティブな議論や演習を含む。

評価方法：全ての講義に出席し、レポートの提出することを単位取得条件とする。成績はレポートの内容及び討論への参加などを総合的に評価する。

教科書：指定無し

参考図書：適宜指示する。

授業外における学習の方法：自主的な予習復習や発表準備が必要。

受講生に望むこと：全ての回に出席し積極的に発言して授業に参加してください。

授業計画（各週毎授業計画）

第1回（6月27日） 実験心理学に対する社会や産業界の期待

第2回（7月2日） 社会のニーズから基礎研究を思考する

※1 上記講義日程は6月27日から7月末までの間で変更になる可能性があります。

※2 受講希望者は4月18日までに授業担当者にメールで問い合わせること。

メールアドレス：j.ohyama@aist.go.jp

臨床心理学特講 I (01EE420)

(Lecture on Clinical Psychology I)

授業形態：講義

担当教員：濱口佳和

教室：人間 A202

授業時間：春 A B 金曜日 第 3・4 時限

研究室：総合研究棟 D706

単位数：2 単位

オフィスアワー：木曜日 15 時～17 時

履修年次：1 年

教育目標との関連：教育目標③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家) としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理臨床を行っていくために必要な、臨床心理学の基礎知識を習得する。

授業概要：臨床心理学の諸基礎理論、心理臨床的介入の実際などを概説するとともに、心理臨床家の社会的役割、倫理等についても解説する。

評価方法：授業への出席、討論への参加、レポート等で総合的に評価する。

教科書：1 回目の授業にて提示

参考図書：

『臨床心理学全書 1：臨床心理学原論』大塚義孝（編） 誠信書房

『講座臨床心理学：臨床心理学とは何か』下山晴彦・丹野義彦（編） 東京大学出版会

『臨床心理学の倫理をまなぶ』金沢吉展（著） 東京大学出版会

『開かれた小さな扉—ある自閉児をめぐる愛の記録』V.M. アクスライン 日本エディタースクール編集部

『遊戯療法と子どもの心的世界』弘中正美（著） 金剛出版

『箱庭療法—基礎的研究と実践』木村晴子（著） 創元社

その他、授業で指定

授業外における学習の方法：心理相談室やこども相談室の活動への参加で、臨床経験を豊かにすること。

受講生に望むこと：積極的に参加すること。

※ 受講は心理臨床コースの学生に限る

授業計画（各週毎授業計画）

（1 学期 10 回分。1 回 2 時間配当）

1. 臨床心理学とは何か？
2. 臨床心理学の発展と現状
3. 臨床心理士の業務と職業倫理 1
4. 臨床心理士の業務と職業倫理 2
5. 臨床心理学の研究法（事例研究法）
6. 遊戯療法の理論
7. 遊戯療法の実際（事例 1）
8. 遊戯療法の実際（事例 2, 事例 3）
9. 箱庭療法の理論
10. 箱庭療法の実際（事例 1・事例 2）

（財）日本臨床心理士認定協会が定める臨床心理士の業務、倫理および研鑽などについて十分理解を深めるとともに、インターカンファレンスなど相談室活動に参加する上で必要な基礎的知識を学ぶ。その上で、専門書に掲載された優れた事例と DVD などの視聴覚教材を利用して遊戯療法と箱庭療法の理論と実際について理解を深める。受講生には積極的に討議に参加することが望まれる。

臨床心理学特講Ⅱ (01EE421)

(Lecture on Clinical Psychology II)

授業形態：講義

担当教員：沢宮容子

教室：人間A202

授業時間：秋AB 火曜日 第5・6時限

研究室：総合研究棟D722

単位数：2単位

オフィスアワー：木曜日昼休み

履修年次：1年

教育目標との関連：教育目標③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理臨床を行っていくために必要な、臨床心理学の基礎知識を習得する。

授業概要：臨床心理学の諸基礎理論、心理臨床的介入の実際などを概説するとともに、心理臨床家の社会的役割、倫理等についても解説する。

評価方法：授業への出席、討論への参加、レポート等で総合的に評価する。

教科書：1回目の授業にて提示

参考図書：

『臨床心理学全書1：臨床心理学原論』大塚義孝（編） 誠信書房

『講座臨床心理学：臨床心理学とは何か』下山晴彦・丹野義彦（編） 東京大学出版会

その他、授業で指定

授業外における学習の方法：心理相談室やこども相談室の活動への参加で、臨床経験を豊かにすること。

受講生に望むこと：積極的に参加すること。

※ 受講は心理臨床コースの学生に限る

授業計画（各週毎授業計画）

（秋AB学期10回分。1回2時間配当）

1. 精神分析的療法の理論
2. 精神分析的療法の実際（事例）
3. 来談者中心療法の理論
4. 来談者中心療法の実際（事例）
5. 行動療法・認知行動療法の理論1
6. 行動療法・認知行動療法の理論2
7. 行動療法・認知行動療法の実際（事例）
8. 日本の心理療法（森田療法、内観療法、臨床動作法等）の理論と実際
9. 集団心理療法の理論と実際
10. まとめと総合討論

（財）日本臨床心理士認定協会が定める臨床心理士の業務、倫理および研鑽などについて十分理解を深めるとともに、インタークカンファレンスなど相談室活動に参加する上で必要な基礎的知識を学ぶ。その上で、専門書に掲載された優れた事例とDVDなどの視聴覚教材を利用して各種心理療法の理論と実際について理解を深める。受講生には積極的に討議に参加することが望まれる。

臨床心理面接特講 I (心理支援に関する理論と実践) (01EE422)

(Lecture on Psychotherapy I : Theory and Practice or Psychological Support)

授業形態 : 講義・実習

担当教員 : 青木佐奈枝

教室 : 人間 A202

授業時間 : 春 A B 木曜日 第 5・6 時限

研究室 : 総合研究棟 D705

単位数 : 2 単位

オフィスアワー : メールによる問い合わせ

履修年次 : 1 年

教育目標との関連 : 教育目標③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家) としての能力の養成」に関連

授業の到達目標 : 心理臨床における面接の基本技術と心構えを身につける。

授業概要 : 心理臨床における面接法の基本的な知識とスキルを習得することを目的としている。授業前半は、心理面接に関する基礎について概説する。力動論, 行動論・認知論, その他の主要な心理療法の理論と方法について取り上げるとともに、心理の支援に要する者の特性に応じた支援方法の選択・調整についても学ぶ。また、後半は、ミニ・カウンセリングやロールプレイングなども用いて、相談, 助言, 指導など具体的な面接方法について体験的な学習を行う。

評価方法 : 出席状況と課題への取り組み, 授業への主体的なかかわり方をもとに評価。

教科書 : 適宜指定

参考図書 : 適宜紹介

授業外における学習の方法 : 心理臨床に関する書籍や論文, 事例報告など文献的な学習を行うとともに、日々の生活の中での自分自身の諸体験を通して、自己に対する理解を深めていって欲しい。

受講生に望むこと : 主体的に学ぶ姿勢を期待する

※ 受講は心理臨床コースの学生に限る

授業計画

前半	後半
第1回: 臨床心理支援とは	ミニ・カウンセリング①
第2回: 基本ルールと倫理	ミニ・カウンセリング②
第3回: 臨床心理アセスメント	ミニ・カウンセリング③
第4回: 臨床心理面接	ミニ・カウンセリング④
第5回: 力動論的心理支援①	ミニ・カウンセリング⑤
第6回: 力動論的心理支援②	ミニ・カウンセリング⑥
第7回: 行動論・認知論的心理支援①	ミニ・カウンセリング⑦
第8回: 行動論・認知論的心理支援②	ミニ・カウンセリング⑧
第9回: その他の心理支援	ミニ・カウンセリング⑨
第10回: 総括	ミニ・カウンセリング⑩

臨床心理面接特講Ⅱ (01EE423)

(Lecture on Psychotherapy II)

授業形態：講義・実習

担当教員：杉江征

教室：人間A202

授業時間：春C 火曜日と金曜日 第3・4・(5)時限

研究室：人間系学系棟 B328

単位数：2単位

オフィスアワー：メールによる問い合わせ

履修年次：1年

教育目標との関連：教育目標③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家) としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理臨床における面接の基本技術と心構えを身につける。

授業概要：この授業では、心理臨床における面接法の基本的な知識とスキルを習得することを目的としている。そのため、授業では、ミニ・カウンセリングを行い、実際の面接方法について体験的な学習を行っていく予定である。

評価方法：出席状況と課題への取り組み、授業への主体的なかわり方をもとに評価を行う。

教科書：特に指定しない。

参考図書：土居 健郎(著)、『方法としての面接—臨床家のために』(1992). やJames Morrison (著)、“The First Interview 4版”(2014). など適宜授業中に紹介していく予定。

授業外における学習の方法：心理臨床に関する書籍や論文、事例報告など文献的な学習を行うとともに、日々の生活の中での自分自身の諸体験を通して、自己に対する理解を深めていって欲しい。

受講生に望むこと：心理臨床を学ぶ上で大切なのは、会話を通した自己と他者との交流である。それゆえ、授業では、一方的な講義という形態をとらずに、学生と教員あるいは学生間の相互の対話を重視した形式で行う。授業の中で取り上げられる話題についても、各自がそれぞれの体験の中で吟味し、その話題と自己の在り方を問うことによって心理臨床の基本的な考え方の理解を深めていって欲しい。

※ 受講は心理臨床コースの学生に限る

授業計画

第1回目：レポーターの割り振り、「話を聴くこと」の概説を行う。「話を聴くこと」の概説の中では、話を聴くことについての「訓練の意味」などについても概説を行う。

第2回目以降

ミニ・カウンセリングの検討を行う。ミニ・カウンセリングは、各回、話し手と聴き手の役割をとった模擬面接場面の録音テープ（あるいはビデオ）と逐語録を作成し、それをもとに面接における話の聴き方を検討する。また、グループワークやロールプレイ等も適宜行う。受講者全員が「話し手」と「聴き手」の役割を体験し、個々の受講者の実情に合わせた面接法の基礎的なトレーニングを実施していく予定である。

臨床心理基礎実習 (01EE440)

(Practice in Clinical Psychology: Basic)

授業形態：臨床実習

教室：総合研究棟 D116, D117；人間 B301

担当教員：沢宮容子・杉江征・濱口佳和・青木佐奈枝

・菅原大地・慶野遥香・田附あえか・田中崇恵

・伊里綾子・小川俊樹・中村聡美

授業時間：通年 木曜日 第3・4時限

単位数：2単位

履修年次：1年

研究室：教員により異なる

オフィスアワー：教員により異なる

(メールによる問い合わせ)

教育目標との関連：教育目標③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：インテークの実際を学び、インテークに必要な最小限の情報収集力の修得や適切なアセスメントを行うなど、インテーカーとして活動できるようになること。

授業概要：心理相談室やこども相談室でのインテークとインテークカンファレンスへの参加。

評価方法：相談室活動への参加とインテークカンファレンスでの発表、討論への参加等から総合的に評価する。

教科書：特になし。

参考図書：適宜提示する。

授業外における学習の方法：上述したように、相談室活動への参加が必須であり、その点では上述の授業時間外にも行われることに注意。

受講生に望むこと：積極的に参加し、質問すること。

※ 受講は心理臨床コースの学生に限る

授業計画 (各週毎授業計画)

心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室とこども相談室を用いて実習を行う。教員のインテークに同席したり、インテークを観察し、インテークカンファレンスにも出席してケースをアセスメントの力を養う。1年次の必修科目であり、インテークカンファレンスへの出席が必須である。

臨床心理実習 I (心理実践実習 II C) (01EE441)

(Practice in Clinical Psychology I : Practicum in Psychology X)

授業形態 : 臨床実習

教室 : 人間 B301

授業時間 : 春 ABC 木曜日 第4時限

単位数 : 2単位

履修年次 : 2年

担当教員 : 沢宮容子・杉江征・青木佐奈枝・菅原大地

慶野遥香・田附あえか・田中崇恵・伊里綾子

研究室 : 教員により異なる

オフィスアワー : 教員により異なる

(メールによる問い合わせ)

教育目標との関連 : 教育目標③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家) としての能力の養成」に関連

授業の到達目標 : インテークを一人で実施できるとともに、スーパーバイズの下でケースを担当できるようになること。

授業概要 : 心理相談室および子ども相談室の活動に参加し、インテークカンファレンスへの参加。

評価方法 : 相談室活動への参加とインテークカンファレンスでの発表、討論への参加等から総合的に評価する。

教科書 : 特になし

参考図書 : 適宜提示する。

授業外における学習の方法 : 上述したように、相談室活動への参加が必須であり、その点では上述の授業時間外にも行われることに注意。

受講生に望むこと : 積極的に参加し、質問すること。

※ 受講は心理臨床コースの学生に限る

授業計画 (各週毎授業計画)

心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて実習を行う。実習ではケースを直接担当し、カウンセリングを行うのに必要な技能の習得に努める。したがって、担当ケースによっては、正規の授業時間外にも行われる。なお、心理相談室は夏期及び春期休暇中にも開かれているので、休暇中も授業が行われる。2年次の必修科目であり、インテークカンファレンスへの出席が必須である。

臨床心理実習Ⅱ (01EE442)

(Practice in Clinical Psychology II)

授業形態：臨床実習

教室：人間B301

授業時間：秋ABC 木曜日 第4時限

単位数：2単位

履修年次：2年

担当教員：沢宮容子・杉江征・青木佐奈枝・菅原大地

慶野遥香・田附あえか・田中崇恵・伊里綾子

研究室：教員により異なる

オフィスアワー：教員により異なる

(メールによる問い合わせ)

教育目標との関連：教育目標③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：インテークを一人で実施できるとともに、スーパーバイズの下でケースを担当できるようになること。

授業概要：心理相談室および子ども相談室の活動に参加し、インテークカンファレンスへの参加。

評価方法：相談室活動への参加とインテークカンファレンスでの発表、討論への参加等から総合的に評価する。

教科書：特になし

参考図書：適宜提示する。

授業外における学習の方法：上述したように、相談室活動への参加が必須であり、その点では上述の授業時間外にも行われることに注意。

受講生に望むこと：積極的に参加し、質問すること。

※ 受講は心理臨床コースの学生に限る

授業計画 (各週毎授業計画)

心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて実習を行う。実習ではケースを直接担当し、カウンセリングを行うのに必要な技能の習得に努める。したがって、担当ケースによっては、正規の授業時間外にも行われる。なお、心理相談室は夏期及び春期休暇中にも開かれているので、休暇中も授業が行われる。2年次の必修科目であり、インテークカンファレンスへの出席が必須である。

発達臨床心理実習 I (心理実践実習 II D) (01EE443)

(Practice in Developmental Clinical Psychology I : Practicum in Psychology Y)

授業形態 : 臨床実習

担当教員 : 濱口佳和・庄司一子・沢宮容子・菅原大地

教室 : 総合研究棟 D116, D117

授業時間 : 通年 木曜日 第 3 時限

研究室 : 総合研究棟 D706, D315

単位数 : 2 単位

オフィスアワー : 濱口 (木曜 15 時～17 時 00 分)

履修年次 : 2 年

庄司 (木曜 15 時 30 分～17 時)

教育目標との関連 :

③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家) としての能力の養成」に関連

授業の到達目標 :

筑波大学子ども相談室での心理臨床活動および相談室のカンファレンスでの討論、グループ・スーパービジョンなどを通じて、幼児期から思春期頃までの心理・行動上の問題・軽度発達障害を持つ子どもとその保護者・学校教員などへの臨床心理学的支援の実践力を高める。臨床心理査定演習で学んだ諸検査のスキルを、相談活動の中で高めること、子どもへの支援法として遊戯療法や行動療法などの実践経験をつむこと、保護者面接の陪席・実践により、非指示的カウンセリングと子どもの問題についてのコンサルテーションの実践力を獲得することが目標とされる。

授業概要 :

受講は心理臨床コースの大学院生に限定される。心理臨床コースの 2 年時の学生は、本科目か 01EE441 臨床心理実習 I どちらか 1 科目を選択必修で、基本的には発達臨床心理学分野の学生の履修が望まれる。財団法人臨床心理士資格認定協会が定める指定校の必修科目であり、かつ公認心理師受験資格に関わる 2 年次の実習科目である。受講生は筑波大学子ども相談室の相談研修員登録をし、相談室の定める研修相談員の種別に応じて子ども相談室での実践に、博士後期課程の大学院生、担当教員、非常勤相談員とともにチームを組んで従事することが求められる。この授業では特に、相談室のカンファレンスへの出席と担当事例の発表・討論への参加が求められる。

評価方法 : 相談室カンファレンスへの参加状況、担当事例での実践活動状況をふまえ、総合的に評価する。

教科書 : 特に指定はしない。

参考図書 : ゲリー・ランドレス『新版・プレイセラピー:関係性の営み』日本評論社

弘中正美『遊戯療法と子どもの心的世界』金剛出版

R.フォアハンド&N.ロング『困った子が 5 週間で変わる一親にできる行動改善プログラム』日本評論社

授業外における学習の方法 :

担当する事例の問題行動などについて関連文献をよく調べること、各自が行った各回の子どもへの心理療法や親面接の振り返りをよく行い、記録し、適宜まとめることが求められる。

受講生に望むこと : カンファレンスやグループ・スーパービジョン、事例ごとのミーティングに積極的に参加すること、心理臨床の実践者としての倫理を十分に自覚して実践活動を行うこと、各自が行った心理臨床実践について毎回よく振り返りを行い、長所短所を自覚し実践力の向上を目指してほしい。クライアントやその持ち物に対して損害を与えた場合の備えとして、相談室で進める保険に加入することを求める。

※ 受講は心理臨床コースの学生に限る

授業計画 (各週毎授業計画)

(1) 授業としての活動 : 通年毎週木曜日 3 時限に行われるカンファレンスへの出席

(2) 相談活動 :

原則として月曜日～金曜日の子ども相談室開室時間帯に、担当教員、学外相談員、他の相談研修員とチームを組んで相談活動を行う。相談時間は個々の事例によって決められる。各種検査面接、子どもへの心理療法の実践、保護者面接や受理面接への陪席、保護者面接の実践、などの役割を研修員の種別に応じて担当する。相談活動の各回における事前・事後のミーティングと担当ケースのグループ・スーパービジョンに参加する(グループ・スーパービジョンの開催日程は後日発表する)。また、相談活動の運営方法を学ぶため、相談室の実務活動に参加する。

発達臨床心理実習Ⅱ (01EE444)

(Practice in Developmental Clinical Psychology II)

授業形態：臨床実習

担当教員：濱口佳和・庄司一子・沢宮容子・菅原大地

教室：総合研究棟 D116, D117

授業時間：秋 ABC 木曜日 第3時限

研究室：総合研究棟 D706, D315

単位数：2単位

オフィスアワー：濱口（木曜 15 時～17 時 00 分）

履修年次：2年

庄司（木曜 15 時 30 分～17 時）

教育目標との関連：

③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner（科学者-臨床家）としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：

筑波大学子ども相談室での心理臨床活動および相談室のカンファレンスでの討論、グループ・スーパービジョンなどを通じて、幼児期から思春期頃までの心理・行動上の問題・軽度発達障害を持つ子どもとその保護者・学校教員などへの臨床心理学的支援の実践力を高める。臨床心理査定演習で学んだ諸検査のスキルを、相談活動の中で一層高めること、子どもへの支援法として遊戯療法や行動療法などの実践経験をつむこと、保護者面接の陪席・実践により、非指示的カウンセリングと子どもの問題についてのコンサルテーションの実践力を獲得することが目標とされる。

授業概要：

財団法人臨床心理士資格認定協会が定める指定校の必修科目であり、受講は心理臨床コースの大学院生に限定される。受講生は筑波大学子ども相談室の相談研修員登録をし、相談室の定める研修相談員の種別に応じて子ども相談室での実践に、博士後期課程の大学院生、担当教員、非常勤相談員とともにチームを組んで従事することが求められる。この授業では特に、各事例におけるミーティング、担当教員によるグループ・スーパービジョンへの参加・発表・討論が求められる。

評価方法：相談室グループ・スーパービジョンへの参加状況、担当事例での実践活動状況をふまえ、総合的に評価する。

教科書：特に指定はしない。

参考図書：ゲリー・ランドレス『新版・プレイセラピー：関係性の営み』日本評論社

弘中正美『遊戯療法と子どもの心的世界』金剛出版

R.フォアハンド&N.ロング『困った子が5週間で変わる一親にできる行動改善プログラム』日本評論社

Schroeder, C.S. & Gordon, B.N. *Assessment and treatment of childhood problems: Clinician's guide*
2nd edition Guilford Press.

授業外における学習の方法：

担当する事例の問題行動などについて関連文献をよく調べること、各自が行った各回の子どもの心理療法や親面接の振り返りをよく行い、記録し、適宜まとめることが求められる。

受講生に望むこと：カンファレンスやグループ・スーパービジョン、事例ごとのミーティングに積極的に参加すること、心理臨床の実践者としての倫理を十分に自覚して実践活動を行うこと、各自が行った心理臨床実践について毎回よく振り返りを行い、長所短所を自覚し実践力の向上を目指してほしい。クライアントやその持ち物に対して損害を与えた場合の備えとして、相談室で進める保険に加入することを求める。

※ 受講は心理臨床コースの学生に限る

授業計画（各週毎授業計画）

(1) 授業としての活動：通年毎週木曜日 3 時限に行われるカンファレンスへの出席

(2) 相談活動：

原則として月曜日～金曜日の子ども相談室開室時間帯に、担当教員、学外相談員、他の相談研修員とチームを組んで相談活動を行う。相談時間は個々の事例によって決められる。各種検査面接、子どもへの心理療法の実践、保護者面接や受理面接への陪席、保護者面接の実践、などの役割を研修員の種別に応じて担当する。相談活動の各回における事前・事後のミーティングと担当ケースのグループ・スーパービジョンに参加する（グループ・スーパービジョンの開催日程は後日発表する）。また、相談活動の運営方法を学ぶため、相談室の実務活動に参加する。

臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践) (01EE406)

(Seminar in Psychological Assessment I : Theory and Practice of Psychological Assessment)

授業形態 : 演習

担当教員 : 濱口佳和

教室 : 人間 B301

授業時間 : 春 C・秋 C 月曜日 第 1～4 時限

研究室 : 総合研究棟 D706

単位数 : 2 単位

オフィスアワー : 木 15 時～17 時

履修年次 : 1 年

教育目標との関連 :

「②心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」, ③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家) としての能力の養成」に関連

授業の到達目標 : 心理臨床の実践でよく用いられる個別式知能検査や発達検査について, それぞれの検査の背景理論の理解を深めるとともに, 演習を通じて, 検査の実施・採点, 個人の知能・発達水準の評価の仕方を身につける. 公認心理師の業務の中でのアセスメントの意義を理解を深める.

授業概要 : 心理臨床コースの必修科目. 財団法人日本臨床心理士資格認定協会により指定校の必修科目と定められており, 受講は心理臨床コースの大学院 1 年生に限定される. 各種検査の講義と DVD などを用いた実演を行う. 受講後, 受講生はロールプレイまたは実地で各種検査を実施し, その結果をレポートにまとめることが求められる. 各種個別式知能検査・発達検査, 質問紙タイプの心理尺度などを取り上げる.

評価方法 : 講義への出席と提出されたレポートにより評価する.

教科書 : 特になし. 各回において参考資料を印刷・配布する.

参考図書 : 上里一郎 (監修) 『心理アセスメントハンドブック』西村書店
氏原寛他 (編) 『心理臨床大事典』培風館

授業外における学習の方法 :

各回の講義終了後, 受講生は順番で検査器具とマニュアルの貸し出しを受けるが, この際, 練習を十分に行い, 検査の実施手順に習熟することが特に必要.

受講生に望むこと :

全ての講義に出席し, 与えられたレポート課題を期日までに提出すること. また, 検査器具の貸し借りはルールと期日を守ること.

※ 受講は心理臨床コースの学生に限る

授業計画

- 春 第 1 回 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義
- 春 第 2 回 個別式知能検査① ウェクスラー知能検査 1
- 春 第 3 回 個別式知能検査① ウェクスラー知能検査 2
- 春 第 4 回 個別式知能検査① ウェクスラー知能検査 3
- 春 第 5 回 個別式知能検査① ウェクスラー知能検査 4
- 秋 第 1 回 個別式知能検査② 田中・ビネー V 知能検査 1
- 秋 第 2 回 個別式知能検査② 田中・ビネー V 知能検査 2
- 秋 第 3 回 個別式知能検査② 田中・ビネー V 知能検査 3
- 秋 第 4 回 発達検査 1
- 秋 第 5 回 発達検査 2

各回は 2 時限分

臨床心理査定演習Ⅱ (01EE407)

(Seminar in Psychological Assessment II)

授業形態：演習

担当教員：青木佐奈枝

教室：人間B301

授業時間：春AB 火曜日 第5・6時限

研究室：総合研究棟D705

単位数：2単位

オフィスアワー：教員により異なる

年次：2年

(メールによる問い合わせ)

教育目標との関連：教育目標②「心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」、③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：

心理支援職が身に着けるべき技能の1つである心理的アセスメントについて学ぶ。特に心理検査について、それぞれの検査の背景理論、方法論、施行法の理解を深めるとともに、心理面接、助言、指導など心理支援の際の活用について具体的に学ぶ。

授業概要：

心理臨床コースの必修科目。公認心理師資格にかかる必修科目、財団法人日本臨床心理士資格認定協会により指定校の必修科目と定められており、受講は心理臨床コースの大学院2年生に限定される。

受講後、受講生は各種検査を実施し、その結果をレポートにまとめることが求められる。

評価方法：開催される講義への出席と提出されたレポートにより評価する。

教科書：特になし。各回において参考資料を印刷・配布する。

参考図書：上里一郎(監修)『心理アセスメントハンドブック』西村書店

氏原寛他(編)『心理臨床大事典』培風館

田川皓一(編)『神経心理学評価ハンドブック』西村書店

Golden, C. J. et al. (著) / 櫻井正人(訳)『高次脳機能検査の解釈過程』協同医書出版社

受講生に望むこと：

全ての講義に出席し、与えられたレポート課題を期日までに提出すること。また、検査器具の貸し借りはルールと期日を守ること。

※ 受講は心理臨床コースの学生に限る

授業計画 (各週毎授業計画)

第1回：パーソナリティ検査／質問紙法 (TEG・YG 性格検査・MMPI など)

第2回：パーソナリティ検査／半投映法 (SCT・PF スタディ)

第3回：パーソナリティ検査／投映法 (TAT)

第4回：パーソナリティ検査／投映法 (描画検査)

第5回：テスト・バッテリーを用いた事例解釈①

第6回：テスト・バッテリーを用いた事例解釈②

第7回：テスト・バッテリーを用いた事例解釈③

第8回：テスト・バッテリーを用いた事例解釈④

第9回：テスト・バッテリーを用いた事例解釈⑤

第10回：テスト・バッテリーを用いた事例解釈⑥

発達臨床心理学特講（教育分野に関する理論と支援の展開 Y）（01EE410）

（Lecture on Developmental Clinical Psychology

: Support Theory and Applications in Educational Area Y）

授業形態：講義・演習

担当教員：濱口佳和

教室：人間 B335

授業時間：秋学期 A B 火曜日 第 3・4 時限

研究室：総合研究棟 D706

単位数：2 単位

オフィスアワー：メールによる問い合わせ

履修年次：1・2 年

教育目標との関連：

「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：

児童・青年の心や行動の諸問題についての基礎的研究および臨床心理学的介入研究の最新の知見を獲得すること。

授業概要：

児童・青年の心や行動の諸問題について書かれた英文の専門書、欧文雑誌などを取り上げ、担当を決めて輪読する。今年度は児童・青年の精神疾患への臨床心理学的アプローチについての米国の定評ある専門書の輪読を行う。

評価方法：

各回の出席、担当部分の発表、レポートなどを総合的に評価する。単位の取得には全授業回数の 60%以上の出席が必須。

教科書：

児童・青年の社会的不適応についての英語書籍・または英語論文を授業開始時に指定する。

参考図書：

特に指定しない

授業外における学習の方法：

発表の担当者は、割り当て部分を精読し、不明の事柄については関連文献に当たるなどして極力調べておくことなどして、その内容について理解を深めておくことが求められる。

受講生に望むこと：

積極的な授業参加を望みます。質問や意見など、どんどん述べ、活発な論議を望みます。また授業で取り上げられた内容で、興味がひかれた事柄については、各自で積極的に文献を調べ、学習を進めることを望みます。単に当該領域の最新の知見を得るだけでなく、欧米における児童臨床心理学研究の現在の水準の高さをしっかり認識し、今後各自が研究を進めていく上での示唆を得るようにしてほしい。

授業計画（各週毎授業計画）

第 1 回 ガイダンス

第 2 回以降は 参加者で書籍の章あるいは論文の分担をきめ、各章 1～2 時間程度を使って発表・討議する。

老年心理学特講 (01EE428)

(Lecture on Psychogerontology)

授業形態：講義

担当教員：大川一郎

教室：BNK213

授業時間：春C 火曜日 第7・8時限, 木曜日 第7・8時限

研究室：東京キャンパス

単位数：2単位

オフィスアワー：

履修年次：1・2年

教育目標との関連：「①広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」に関連

授業の到達目標：高齢者に対する心理臨床的なケアのあり方について、その考え方、方法論を理解する。

授業概要：人間の生涯的発達の中での老年期に焦点を当てる。「生まれてから死ぬまでの生涯発達の過程における中高年期の位置づけ」「その心理的な意味」「老いるとはどういうことなのか」「加齢に伴い、身体機能、知的機能はどう変化していくのか」「また、そのことが日常生活上にどのような変化をもたらすのか」「家族関係も含めて人間関係はどのように変化していくのか」などのテーマについて事例も含めて考えていきたい。

評価方法：毎回の出席及び、授業中の課題の報告、討論への参加の度合い等によって総合的に判断する。

教科書：「エピソードでつかむ老年心理学」ミネルヴァ書房 2011。

その他、授業の内容に応じたレジュメ、資料等を適宜配布する。

参考図書：授業時、適宜、紹介する。

授業外における学習の方法：新聞、雑誌、TV等で、高齢者にかかわる話題に敏感に反応し、読んだり見たりし、自分なりの考察を深めるように努めてほしい。また、課外実習として、高齢者体験を予定している。

受講生に望むこと：単に知識や情報の習得だけでなく、授業をきっかけに高齢者の視点から現象をとらえられるように考察を深めて欲しい。

授業計画（各週毎授業計画）

- 1週～2週 生涯発達の視点からみた老年期
- 3週～4週 老いるということ ―老年期の心理的な意―
- 5週～6週 身体機能のエイジング
- 7週～8週 知的機能のエイジング
- 9週～10週 高齢者に対する心理的理解と支援

※受講希望者は、授業担当者にメールで問い合わせること（実施時期、授業形態等）。

メールアドレス iot21005@human.tsukuba.ac.jp

学校心理学特講（教育分野に関する理論と支援の展開 Z）（01EE432）

（Lecture on School Counseling: Support Theory and Applications in Educational Area Z）

授業形態：講義

担当教員：飯田順子

教室：8B210

授業時間：春A B 水曜日 1・2時限

研究室：人間系学系棟 B304

単位数：2単位

オフィスアワー：水曜日 13:00～14:00

履修年次：1・2年

（事前にメールにてご連絡ください）

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」および③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner（科学者-臨床家）としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：①学校心理学の基礎概念について理解する。②学校心理学が扱う領域に含まれる様々なトピックについて理解を深める（不登校、発達障害など）。③学校心理学のなかで行われている最新の研究について学ぶ。④心理教育的援助サービスの技法（アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション）を学ぶ。

授業概要：学校心理学とは、子どもが出会う問題状況の解決や成長の促進を目指す援助サービスの理論と実践を支える学問体系です。この授業では、学校心理学の理論や心理教育的援助サービスの実践について講義で学ぶと同時に、学校心理学の中心概念である「援助サービス」についてロールプレー等を交えて実践力を高めることを目指します。

評価方法：出席（出席状況と参加の程度）30%，課題30%，試験40%

教科書：授業の中で指定します。

参考図書：

日本学校心理学会（編集） 学校心理学ハンドブック「チーム」学校の充実をめざして 教育出版

石隈利紀 1999 『学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス』誠信書房

学校心理士資格認定委員会 2012 学校心理学ガイドブック第3版 風間書房

石隈利紀・松本真理子・飯田順子 2013 『世界の学校心理学』明石書店

水野治久・家近早苗・石隈利紀 2018 チーム学校での効果的な援助：学校心理学の最前線 ナカニシヤ出版

授業外における学習の方法：授業内で関連論文等を多数紹介しますので、授業外で読んでいただくことを期待します。

受講生に望むこと：授業内ではグループディスカッションやロールプレーなどを行いますので、積極的に参加してください。

授業計画（各週毎授業計画）

1. オリエンテーション、学校心理学とは
2. 学校心理学の国際比較
3. 日本における学校心理学
4. 学校心理学の基礎概念
5. 4種類のヘルパーとチーム学校
6. 3段階の心理教育的援助サービス
7. 心理教育的アセスメント
8. カウンセリング
9. 教師・保護者・学校組織へのコンサルテーション
10. 学校心理士の倫理とまとめ

アセスメント心理学特講 I (01EE415)

(Lecture on Assessment Psychology I)

授業形態：講義及び演習

担当教員：青木佐奈枝

教室：人間 B301

授業時間：春 AB 木曜日 第 1・2 時限

研究室：総合研究棟 D705

単位数：2 単位

オフィスアワー：メールによる問い合わせ

履修年次：1・2 年

教育目標との関連：教育目標②「心理学的方法論を駆使して問題を実証的に分析する能力の養成」、③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家) としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：心理臨床家の業務である「心理アセスメント」に関して理解する。特にロールシャッハ法の習熟を目指す。質的分析の理解を目標とする。

授業概要：心理支援の基礎である心理アセスメント法 - とくにロールシャッハ法を概説し、関係文献や資料の講読、討論、及びアセスメント実習を通して理解を深める。継列分析・内容分析を中心に進める。

評価方法：出席と課題レポート発表等を総合して評価する。

教科書：ロールシャッハ・テストー包括システムの基礎と解釈の原理 (金剛出版)

参考図書：改訂・新・心理診断法 (金子書房)

授業外における学習の方法：関係文献を読み、実習を行う。

受講生に望むこと：積極的参加を望む。

※ 受講は心理臨床コースの学生に限る

授業計画

第 1 回 ロールシャッハ法とは

第 2 回 スコアリング

第 3 回 継列分析①

第 4 回 継列分析②

第 5 回 継列分析③

第 6 回 解釈①

第 7 回 解釈②

第 8 回 解釈③

第 9 回 解釈④

第 10 回 解釈⑤

臨床心理 家族・地域援助特講

(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) (01EE430)

(Lecture on Family and Community Clinical Psychology)

: Support Theory and Practice for Family, Group, and Community)

授業形態：講義・実習

担当教員：田附あえか・杉江征

教室：人間系学系棟 A202

授業時間：秋A B 金曜日 第3・4時限

研究室：人間系学系棟

単位数：2単位

オフィスアワー：メールによる問い合わせ

履修年次：1年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」および教育目標③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家) としての能力の養成」に関連

授業の到達目標：家族・集団・地域の諸問題についての基礎的知識および心理的援助法を身につける

授業概要：家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法、および地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法を学び、実習等を通して心理臨床実践に活かす

評価方法：出席状況と課題への取り組み、授業への主体的なかわり方をもとに評価を行う。

教科書：中釜洋子，野末武義，布柴靖枝，無藤清子（編）『家族心理学 第2版』有斐閣ブックス，2019

参考図書：中釜洋子『家族のための心理援助』金剛出版，2008

平木典子・中釜洋子・友田尋子編著『親密な人間関係のための臨床心理学——家族とつながり，愛し，ケアする力』金子書房，2011 他，その都度指示していく

授業外における学習の方法：現代社会において心理臨床的援助を実践する上で，個人の心理内界や言動のみならず，家族・集団・地域をはじめとする環境への関心および関係性への着目は不可欠である。日常生活の中での自分と環境の関係性について考え，自己に対する理解を豊かにして欲しい。

受講生に望むこと：主体的に参加し，講義や実習を通して，参加者と共に学ぶ姿勢を大事にして欲しい。

授業計画（各週毎授業計画）

1. オリエンテーション：家族関係・集団・地域社会における心理支援とは
2. 家族臨床の理論
3. 家族臨床におけるアセスメントとは
4. 家族臨床の実際
5. 家族臨床に必要なスキル
6. 各領域における家族支援の実際
7. 大学コミュニティにおける心理支援
8. 地域・ボランティア団体における心理支援
9. 産業・組織領域における心理支援
10. 各領域における心理支援プランの立案

キャリアカウンセリング特講

(産業・労働分野に関する理論と支援の展開 X) (01EE433)

(Lecture on Career Counseling: Support Theory and Applications in Industry and Work Area X)

授業形態：講義・演習・発表・討議

担当教員：岡田昌毅

教室：BNK118

授業時間：秋A B 土曜日 第4・5時限

研究室：東京キャンパス

単位数：2単位

オフィスアワー：金曜日 17:30 ~ 18:20

履修年次：1・2年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」および③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連する。

授業の到達目標：キャリア・カウンセラーがクライアントを適切に支援していくには、クライアントの抱える問題・課題に対して多様な視点からアプローチすることが望まれる。キャリア関連の諸理論・アプローチを広く学ぶことで、その相互の関係性や相違を理解し、実践への応用の基盤を習得する。

授業概要：キャリア・カウンセリングの基礎である「キャリアの心理学」を概説し、その理論的背景であるキャリア関連の諸理論・アプローチを紹介する。さらに実際のキャリア・インタビューを通じて、諸理論・アプローチの現実への応用についてグループ毎に整理し、全体発表・討議を実施する。

評価方法：出席と課題レポート発表等を総合して評価する。

教科書：渡辺三枝子編著 2007 「新版キャリアの心理学」 ナカニシヤ出版

参考図書：その他 講義資料の配布、関連文献図書の紹介は授業内で適宜行う。

授業外における学習の方法：関連文献講読、プレゼンテーション資料作成等

受講生に望むこと：社会人大学院生との合同授業を実施します。授業を通じ実社会の実態に触れ、みなさんの研究を如何にして実社会に応用していくかについて、じっくりと考えてくれることを期待しています。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション、キャリア関連諸理論・アプローチの概説
- 第2回：キャリア・インタビュー準備、キャリア・インタビュー（その1）
- 第3回：キャリア・インタビュー（その2）および整理
- 第4回：職業選択と適性
- 第5回：キャリア発達論
- 第6回：働く動機
- 第7回：組織内キャリア発達
- 第8回：社会的学習理論・意思決定論
- 第9回：トランジション論
- 第10回：総合討議

※受講希望者は授業担当者にメールで問い合わせること。

メールアドレス：okada@human.tsukuba.ac.jp

非行・犯罪心理学特講

(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開) (01EE431)

(Lecture on Criminal Psychology : Support Theory and Applications in Forensics and Criminology Area)

授業形態 : 講義・演習・発表・討議

担当教員 : 原田隆之

教室 : BNK118

授業時間 : 秋A B 火曜日 第7・8限

研究室 : 東京キャンパス 446

単位数 : 2単位

オフィスアワー : 木曜日 17:30-18:10

履修年次 : 1・2年

教育目標との関連 : 教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」および③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者-臨床家)としての能力の養成」に関連

授業の到達目標 : 非行・犯罪など司法領域の諸問題についての基礎的知識および心理的援助法を身につける。

授業概要 : 非行・犯罪のリスクファクターに関する知識を基に、エビデンスに基づくアセスメントや処遇についての知識を深める。さらに、実践的な介入技法について、実践的に学ぶ。また、司法・犯罪分野に関わる公認心理師の実践についても理解する。

評価方法 : 授業への取り組み、議論への参加、レポートなどを総合的に評価する

教科書 : 原田隆之訳「犯罪行動の心理学」北大路書房 (Bonta J & Andrews DA (2016) “The Psychology of Criminal Conduct” 6th ed. Routledge.)

参考図書 : 原田隆之(2015)「入門 犯罪心理学」(ちくま新書)

授業外における学習の方法 : 上記教科書を基にした課題の発表の準備をする。

受講生に望むこと : 受動的に受講するのではなく、課題を通して積極的に討論に参加してほしい。

※ テレビ会議システム等を用いるため筑波キャンパスでの受講も可能であるが、教室の予約や機器の準備などについては筑波地区の受講生で協力して行うこと。

授業計画 (各週毎授業計画)

- 第1回 オリエンテーション, 刑事司法・少年司法の枠組み
- 第2回 The Psychology of Criminal Conduct (PCC) の概要
- 第3回 セントラルエイト各論
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 非行・犯罪のアセスメント
- 第7回 同上
- 第8回 非行・犯罪への介入
- 第9回 同上
- 第10回 主な臨床技法の実際

精神医学

(保健医療分野に関する理論と支援の展開 X) (OATB125)

(Lecture on Psychiatry (Support Theory and Applications in Medical and Health Area X))

授業形態：講義

担当教員：白鳥 裕貴

教室：人間 B335

授業時間：集中

研究室：総合研究棟 D706 室 (濱口佳和)

単位数：1 単位

オフィスアワー：毎週木曜日 13 時 30 分～14 時 (濱口佳和)

履修年次：1・2 年

教育目標との関連：教育目標①「広く深い専門的知識を基に、心理学の基礎から応用まで幅広く活躍できる人材の養成」および③「現実の心理的問題に対応できる力を持った実践家となる scientist-practitioner (科学者—臨床家)としての能力の養成」に関連する。

授業の到達目標：代表的な精神疾患について、その概要を説明できる。精神疾患に対する薬物治療について、基本となる薬理学的仮説を説明できる。心理療法、精神療法について概要を説明できる。精神科臨床において代表的な施設について概要を説明できる。

授業概要：心理職が精神科医療臨床で活躍する際に不可欠な、基本的な態度・技能・知識について学習することを学びます。精神医学臨床におけるフィールドを設定し、代表的な精神疾患について、その診断・治療・予後などについて概要を解説し、精神医学の基本について理解を図ります。

評価方法：レポートで評価する

教科書：

参考図書：各回、資料を配布する。

授業外における学習の方法：

受講生に望むこと：

授業計画 (各週毎授業計画)

第 1 回 1/8(金)4 限 精神医学総論 新井 哲明

第 2 回 1/8(金)5 限 治療 (精神療法、薬物療法、身体療法) 佐藤 晋爾

第 3 回 1/12(火)4 限 行政 (精神保健福祉法、精神科救急、自殺、触法精神障害) 白鳥 裕貴

第 4 回 1/12(火)5 限 単科精神科病院 (統合失調症、双極性障害) 井出 政行

第 5 回 1/14(木)4 限 精神科診療所 (睡眠障害、不安症、強迫症) 塚田 恵鯉子

第 6 回 1/14(木)5 限 リワーク、デイケア (うつ病) 松崎 朝樹

第 7 回 1/19(火)5 限 学校 (発達障害、児童思春期、摂食障害) 田村 昌士

第 8 回 1/21(木)5 限 アルコール、薬物、パーソナリティ障害 袖山 紀子

第 9 回 1/22(金)5 限 総合病院 (症状精神病、がん患者に対するサポート) 今井 公文

第 10 回 1/25(月)4 限 認知症患者医療センター (認知症、高齢者) 太田 深秀